

令和5年度

# 業務概要



細島港 牧島山（津波避難施設）草刈り

宮崎県北部港湾事務所

# 目 次

	ページ
1 管内の概況	
1 管轄区域 -----	1
2 自 然 -----	1
3 歴 史 -----	2
4 事務所の沿革 -----	4
5 地域の課題 -----	4
2 業務の概要	
1 北部港湾事務所の施策等の基本方針 -----	7
2 令和4年度の主要事業 -----	9
資 料 編	
1 現 員 調 -----	12
2 職 員 調 -----	12
3 管轄港湾・漁港 -----	13
4 港湾・漁港施設の現況 -----	14
5 プレジャーボート隻数 -----	15
6 管内漁業協同組合の状況 -----	16
7 年度別事業実績 -----	17
8 年度別事業実績の推移 -----	19
9 社会資本整備年表 -----	22
10 細島港の概要 -----	24
細島港の定期航路 -----	29
11 細島臨海工業地帯主要企業一覧表 -----	30
細島港進出企業配置図 -----	32
12 細島港の主な関係官公署及び港湾関係業者 -----	33
管 内 図 -----	34

# 1 管内の概況

## 1 管轄区域

北部港湾事務所は、延岡市、日向市及び門川町の2市1町に所在する7港湾、5漁港並びに港湾・漁港に係る海岸保全区域と一般公共海岸を管轄しています。

管轄区域を含む2市1町の総面積は1,325.31km<sup>2</sup>、人口は188,613人となっています。(R5.4.1現在)

## 2 自然

本県の海岸の総延長は約400kmで日向灘沿岸と称されており、地形上の特徴からリアス式海岸を中心とした県北部・県南部沿岸と、砂浜を中心とした県中部沿岸の3つに区分されています。

県北部沿岸の2市1町の海岸線延長は約185kmで、そのうち管轄する海岸線延長は約119km(港湾50km、漁港69km)となっており、入り組んだリアス式海岸が多く、岬の間にポケットビーチが点在する優れた海岸景観を形成しています。

また、国指定天然記念物の高島のビロウ自生地やカンムリウミスズメ、国登録文化財の大御神社、日本最大級の柱状節理の馬ヶ背等の名勝地があり、沿岸の多くが日豊海岸国立公園に指定されています。

沿岸海域には高島、島浦島、枇榔島、乙島をはじめ多くの島・瀬・礁があり、五ヶ瀬川、耳川、沖田川、五十鈴川等の河川から多くの淡水が流れ込み、沖合を黒潮が北上し豊後水道から南下する沿岸水との間で複雑な海況を呈してイワシ・アジ・サバの好漁場となっています。また、その沖合海域はカツオ・マグロの漁場が形成されています。



カンムリウミスズメ

昭和50年6月に国指定天然記念物  
全長24cmで黒潮及び対馬海流の流れる暖かい海域に生息し、生息数は全国で5000~6000羽と推測され、そのうち門川町枇榔島は約3000羽で最大の生息地とされています。



日向岬の馬ヶ背  
(日本最大級の柱状節理)

### 3 歴史

県北部沿岸は、リアス式海岸や大きな河口があり、天然の良港が多いため港の歴史は古く、各港それぞれに古い歴史がありますが、近代的な港整備の沿革については次項に記載し、ここでは近代的な港の整備が始まる以前の港の歴史を文献等に残されているものと、港に関係する工業及び水産業の歴史について記載しています。

#### (1) 細島港

細島港には神武天皇が御寄港されたという伝説や壇ノ浦の戦いで敗れた平家が安徳天皇を奉じて細島から落ちのび、その追討で工藤祐経や那須与一達が細島から上陸したという平家落人伝説等があります。

鎌倉時代には学問のために宋に渡った留学僧の多くが、細島港から薩摩の坊之津を経る航路を利用していました。また、室町時代の対明貿易は、泉州の堺浦と薩摩の坊之津を中心に行われていましたが、当時の貿易船は瀬戸内海に出没する海賊を避けるため、土佐沖を航行して両港の中間点となる細島港に寄港することが多く、細島港は古くから貿易港、又は大阪方面への玄関口として賑わっていました。

細島港の貿易港としての役割は、徳川幕府の鎖国政策により中断しますが、同じく徳川幕府が定めた参勤交代制度では、日向・大隅・薩摩の南九州諸藩は細島～大阪間を御座船で航行するようになり「飴肥屋」「薩摩屋」「高鍋屋」等の諸侯の本陣や廻船

問屋・よろずや等が軒を連ねて、細島港の南九州における玄関口の役割を高めることになりました。

今でも高鍋・秋月藩の陣屋であった高鍋屋の建物が残っています。明治時代になると、明治13年に個人船主、明治17年には大阪商船(株)により細島港～大阪港の定期航路が開設され関西方面との交流拠点として大変賑わいました。

(日向市史、細島伝承)



明治10年代頃の細島港（商業港）

#### (2) 延岡港

延岡港は、五ヶ瀬川の河口港でももとは東海港と称され、江戸時代には延岡藩主が参勤交代で延岡～瀬戸内海～大阪の海路を利用していました。明治から大正にかけては五ヶ瀬川・北川上流域の林産物・鉱産物、県北六ヶ浦の農水産物の集積地として、上流のカーバイト船着場（現存してない）が利用されていましたが、航路が埋没して浅くなったため、昭和6年から船着場を下流の十貫港（祝子川を1km程上流にさかのぼった現在の昭和町3丁目）に変更し、延豊汽船（現日豊汽船）が大分県蒲江港との間に定期船を就航させていました。しかし、河川増水時の河口への土砂堆積等により航路の維持が困難となりました。(延岡市史)

### (3) 古江港

明治末期には、古江～延岡～土々呂港間に40トンの定期船が就航、大正4年には大阪商船の阪神・四国・細島間の600～800トン級貨客船の寄港地となり、昭和2年には土佐沿岸汽船の高知～細島間の定期貨客船の寄港地となるなど、延岡～北浦間の道路が整備されるまでは、地域の生活物資や農産品の輸送拠点として重要な役割を担っていました。(宮崎県土木史)

### (4) 美々津港

美々津港は神武天皇御船出の伝説地として有名で、江戸時代には高鍋藩の玄関口として、また、明治から大正にかけては、耳川上流域と四国・関西方面との海上交通の



結節点として千石船等の入出港が多く、元禄時代には廻船問屋や商家が軒を連ね「美々津千軒」と呼ばれていました。

明治の初期には美々津に県庁が置かれたことからその賑わいがわかると思われます。当時を偲ばせる建物が重要伝統的建造物群保存地区に指定されています。

重要伝統的建造物群

### (5) 工業都市の形成

延岡市では、大正12年に旭化成の前身である日本窒素肥料のアンモニア合成工場に始まり、旭化成工業のベンベルグ、薬品、火薬、雷管等の工場群を中心に数多くの関連企業が立地されてきました。また、日向市では、昭和27年から畑浦～船場町にかけて臨海工業地帯と工業港の造成に着手し、日向製錬所・東ソー・旭化成工業等が進出しており、昭和39年には日向・延岡地区新産業都市の指定を受けて、現在では県内屈指の工業地域を形成しています。

### (6) 水産業

県北の沿岸海域は複雑な海況を呈し好漁場を形成しているため、古くから漁業が盛んに行われており、豊臣秀吉の朝鮮出兵(1592～1598)において<sup>あがた</sup>県藩主高橋元種が門川の漁師を船員として従軍させ戦功を立てたとされています。

また、明治25年に東臼杵郡赤水村の日高亀市氏が発明した「ぶり大敷網」は、初網から記録的な大漁獲によって名声を得て、漁場を全国10数カ所に拡大し明治43年に「日高式大敷網」(別名・大謀網)として実用新案特許を得るなど日本水産業界に一時代を画しています。(延岡市史)

県北部の沿岸海域では昔からイワシの漁獲が多く、漁船の動力化に伴い巾着網(まき網)漁業が基幹漁業となり、巾着網で獲れたイワシを餌とする養殖漁業や水産加工業も盛んで、土々呂・門川・北浦・島野浦は「魚の町」として全国に名を知られてい

ます。

#### (7) 美々津海岸の災害

県北の海岸における災害としては、美々津海岸の災害が知られています。元禄時代の絵図によると、美々津には今の町並みの東側にもう一筋の通りと松林が描かれていますが、安政2年（1855）の安政南海地震による津波でその家並みが海中に没しています。その後、明治13年の台風により被害を受けて、翌14年に鹿児島県より堤防建設費として400円の支給を受け堤防が建設されました。同23年までに、字図と土地台帳が作成されていますが、明治32年～38年にかけて相次いだ台風の襲来により堤防が破壊され復旧工事を施行しますが、翌39年11月の台風で堤防が決壊し、家屋の全壊38戸、被災者160人で、一つの小字が消滅する大被害を被っています。

### 4 事務所の沿革

戦前から港湾管理事務所として、細島港と土々呂漁港に港務所が設置され、漁港修築事業を行うために門川漁港と島野浦漁港に修築事務所が設置されていました。

戦後は次のような組織の改編・統廃合が行われ、現在は北部港湾事務所として港湾・漁港・海岸の事業と維持管理を行っています。

S 2 0	細島港務所	土々呂港務所	
		門川修築事務所	島野浦修築事務所
S 2 3			北部漁港修築事務所
S 2 4	細島港修築事務所		
S 2 6	細島港湾・漁港修築事務所		北部港湾・漁港修築事務所
S 3 3	細島港湾修築事務所		北部港湾修築事務所
S 3 6	細島臨海工業地区開発事務所	延岡港湾修築事務所	北部港湾事務所
S 3 8	日向・延岡新産業都市建設局	延岡港湾事務所	
S 4 2	日向・延岡新産業都市開発局		延岡港湾北浦駐在所
S 6 3	日向土木事務所 (港湾課・細島港駐在)		
H 4	北部港湾事務所	北部港湾延岡駐在所	北部港湾北浦駐在所
H 2 0	北部港湾延岡駐在所廃止	(廃止)	
H 2 8	北部港湾北浦駐在所廃止		(廃止)

### 5 地域の課題

#### (1) 南海トラフ地震等で発生が予想されている津波に対する防災・減災対策

平成23年3月11日に発生した「東北地方太平洋沖地震」による津波被害を教訓に、新たな津波対策の考え方が示されており、県では、最大クラスの地震・津波（L2津波）に対して、被害を最小化するためのソフト、ハードの総合的な減災対策を「新・宮崎県津波減災計画」（H27.6）としてとりまとめ、県民全体としての防災力の向上を図る計画としています。

なお、細島港では、平成25年3月に策定した「細島港港湾運営継続計画（細島港BCP）」に基づき、日常生活の中で、平成30年4月に整備した津波避難施設の周知や実行性のある避難訓練を実施することが重要になっています。

また、数十年から百数十年に1回程度と比較的発生頻度の高い津波（L1津波）に対して、「日向灘沿岸海岸保全基本計画」（H27.3）を策定し、整備区域に選定した海岸について、地元住民との合意形成を図りながら、整備を進めていく計画としています。

## (2) 海洋レジャー人口の増加に伴うプレジャーボート対策

平成30年度プレジャーボート実態調査では、本県に2,277隻、当事務所管内の港湾・漁港に953隻のプレジャーボートが確認されています。

港湾・漁港では、一部を除いてプレジャーボート係留施設が整備されていないことから、無断係留や漁業者とのトラブルといった放置艇問題が発生しています。

このため、県では、平成19年3月に「宮崎県プレジャーボート対策基本方針」を策定し、全県的な放置艇問題の解決を目指すため、漁港、港湾、河川の各水域管理者が連携を図りながら、係留・保管能力の向上と規制措置を両輪とした対策を推進することとしました。

現在、この基本方針に基づき、地域ごとに利用者代表、漁業関係者、地元市町及び関係機関で構成する調整会議を立ち上げ、具体的な係留配置計画や係留禁止区域等を検討し、合意形成を図る形で対策を進めています。

当事務所管内においては、平成19年当時、浦城湾に約200隻のプレジャーボートが湾内のいたるところに無秩序に係留され、係留施設をめぐるトラブルをはじめ、船舶の安全な航行、漁業活動、周辺環境整備等に様々な支障を来していました。

このため、平成21年6月、延岡市漁業協同組合が県内で初めて浦城湾に小型船係留棧橋を「強い水産業づくり交付金事業（水産庁所管）」により整備し、県においても小型船係留区域を浚渫し、併せて棧橋の取付部分を整備しました。

さらに、県では、平成21年7月1日、浦城湾全域（許可を受けた船舶及び特に指定された区域を除く。）を「漁船を除く船舶の放置を禁止する区域」として指定し、違法係留のプレジャーボートに対し是正指導を行っているところです。

なお、平成23年3月25日には、県内初の簡易代執行として、違法係留のプレジャーボートのうち所有者不明船3隻を撤去し、売却処分しています。

また、浦城湾以外のプレジャーボートについても、係留や陸置きの実態や係留場所等の状況を調査しながら保管能力の確保に努めるとともに、順次地域ごとの地元説明会を実施しながら、プレジャーボート許可制の導入に向けて取り組み、6港湾5漁港で導入しています。

現在、延岡港において令和5年度の許可制導入に向けて取り組んでいます。

#### 許可制導入日

平成24年	4月1日	古江港（延岡市北浦町）	北浦漁港（延岡市北浦町）
平成24年	10月1日	細島港（日向市）	
平成25年	2月1日	島野浦漁港（延岡市）	南浦漁港（須美江地区）（延岡市）
平成25年	4月1日	熊野江港延岡市）	門川漁港（門川町）
平成25年	11月1日	平岩港（日向市）	
平成26年	4月1日	美々津港（日向市）	延岡新港（延岡市）
令和2年	4月1日	土々呂漁港（延岡市）	



#### 【施設の概要】 浦城マリーナ

○計画水深	-2.00m	○収容隻数	200隻
○棧橋延長	1号 L=79m	2号 L=151m	3号 L=117m

#### (3) 細島港における新規岸壁事業とRORO船用岸壁の早期整備

細島港においては、近年、中国木材（株）の進出などにより木材の取扱貨物量が増加し、今後も原木や石炭など貨物の増加が見込まれることから、令和元年度から新たな水深-10m岸壁（16号岸壁）整備を事業化し、令和2年度から工事に着手したところであり、令和5年度の完成を目指しているところです。

また、トラックドライバー不足による海上輸送ニーズも高まっており、令和2年2月には八興運輸（株）による新造船「HAKKO ひなた」が導入されるなど、新たなROR船用の岸壁整備が喫緊の課題となったことから、令和4年度から新たな水深-9m岸壁（19号岸壁）整備事業に着手したところです。

今後とも地元自治体や関係団体など官民を挙げて細島港の整備促進が図られるよう取り組んでいく必要があります。



## 2 業務の概要

### 1 北部港湾事務所の施策等の基本方針

#### (1) 宮崎県総合計画「未来みやざき創造プラン」の推進

『安心と希望の未来への展望』を基本理念とする宮崎県総合計画「未来みやざき創造プラン」の分野別施策のうち、次の項目を重点的に推進していきます。

#### II くらしづくり

##### B-2 自然との共生と環境にやさしい社会

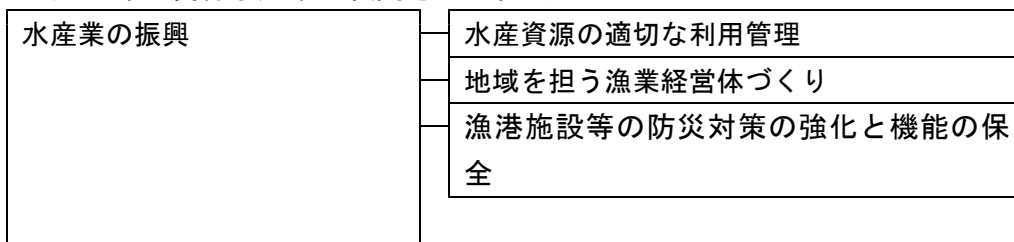
低炭素・循環型社会への転換	低炭素社会の構築
	循環型社会の形成
良好な自然環境・生活環境の保全	地球環境、大気・水環境等の保全
	生物多様性の保全
環境にやさしい社会の基盤づくり	環境保全のために行動する人づくり
	環境にやさしい地域・社会づくり

##### B-4 安全な暮らしが確保される社会

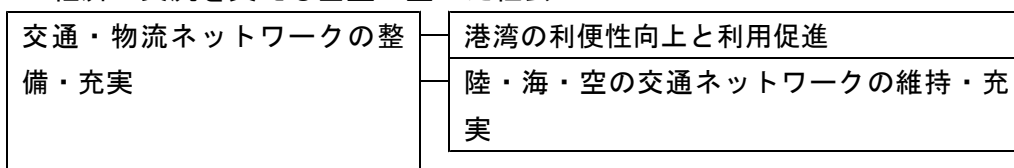
多様化する危機事象に的確に対応できる体制づくり	地域防災力の強化
	防災・減災体制の強化
	防災関係機関の災害対応力の強化
	復興支援の推進
安全で安心な県土づくり	風水害・土砂災害への的確な対応
	地震や津波等災害発生時に備えた社会資本整備の推進
	社会資本の総合的かつ計画的な管理による施設の機能維持
	災害等に迅速に対応できる環境づくり

### Ⅲ 産業づくり

#### C-2 魅力ある農林水産業が展開される社会



#### C-5 経済・交流を支える基盤が整った社会



#### (2) 国が定める長期計画に沿った港湾・漁港・海岸の計画的な整備

国土交通省が定める社会資本整備計画、農林水産省が定める漁港漁場整備長期計画に沿って、細島港港湾計画、港湾整備事業計画、漁港漁場整備事業計画、日向灘沿岸海岸保全基本計画について、選択と集中の観点から現時点での必要性・規模等について検討し、優先度の高い事業を推進します。

#### (3) 職員の意識改革による地域課題の解決

限られた予算の中で、県民のニーズや地域の課題を解決していくために、職員一人ひとりがプロ意識に徹し、積極的に地域ニーズを掘り起こして「地域経営」意識の下、柔軟な発想と明確なコスト意識を持って業務を推進していきます。

#### (4) 事務所の基本方針の推進

以上の事務所の基本方針を推進するため、実務体制を総務課、工務課の2課制とし、事務職9名、技術職9名の計18名体制で業務に取り組んでいます。

## 2 令和5年度の主要事業

### (1) 港湾・漁港関係整備事業

港湾：細島港 改修（重要）事業 岸壁（-10m）  
（令和4年度繰越事業）浚渫、揚土工、舗装工

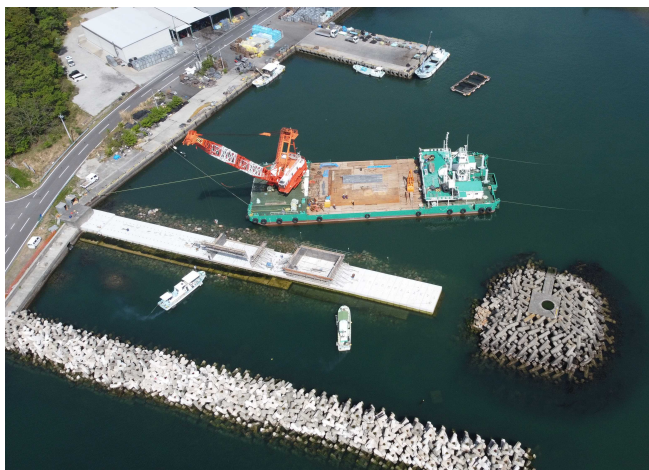
：延岡新港、細島港 社会資本整備総合交付金（防災安全）  
（事業費 C = 156百万円）延岡新港：防砂堤、臨港道路舗装  
細島港（商業港地区）：緑地整備（駐車場）

：古江港海岸 津波対策緊急事業  
（事業費 C = 400百万円）津波防波堤

### 令和5年度事業箇所

（細島港 岸壁（-10m））

（古江港 津波対策緊急事業）



（延岡新港 防砂堤）

**漁港**：北浦漁港における水産流通基盤整備事業

※流通拠点、防災拠点としての機能強化

(事業費 C = 489百万円) 古浦防波堤改良工事、古浦第3岸壁耐震化工事、古浦南防波堤設計、荷さばき所建築工事

：土々呂漁港における生産基盤整備事業

(事業費 C = 140百万円) 土々呂西防波堤設計・改良工事  
土々呂東防波堤調査・設計

：門川漁港における漁港施設機能強化事業

(事業費 C = 20百万円) 第3岸壁耐震化工事

：土々呂漁港海岸における海岸保全施設整備事業

(事業費 C = 150百万円) 東浜地区護岸整備工事  
土々呂地区調査・設計

#### 令和5年度事業箇所



(北浦漁港)



(土々呂漁港)



(門川漁港)



(土々呂漁港海岸)